プチ情報

はぐれた時の事を決めておく

万が一、家族とはぐれてしまった時のために、
待ち合わせる時間と場所を具体的に
決めておきましょう。
たとえば、「小学校」だけではなく、
「小学校の正門に10時」と
"どこ"に、"いつ"なのか？を
決めておく方がすれ違いも防げます。

移動手段は徒歩が一番

建物の倒壊、道路の亀裂、
信号も停電で消えてしまうなど
必ず渋滞が発生します！
車を停車すれば緊急車両の妨げ
にもなってしまいます。
「早く迎えに行かなきゃ！」
という気持ちはわかりますが、
車や、自転車は
避けた方が無難です。

危険な場所の確認を！

自宅周辺や通勤・通学路などの
ハザードマップは確認していますか？
「川が近くにあった」
「実は、浸水地域だった…」など
改めて気付くこともあると思います。
ブロック塀などの危険箇所も、
一度しっかり確認してみましょう。

ベビーカーより抱っこひもを！

地割れした道はデコボコ、
陥没している道もあります。
倒壊した建物や、ブロック塀、
あらゆるものが邪魔で
ベビーカーでは通れない可能性大！
抱っこひもなら、両手が空くので
荷物も持ったり、上の子と
手をつないだりできます。

車を移動させておく

浸水の可能性が高い地域は、
台風や大雨などが予想された時、
車を事前に移動しておくことも忘れずに！
ショッピングセンターなど
立体駐車場を開放してくれる
こともあります。

ペットはどうする？

ペットも大切な家族！
もしもの時、ペット用ケージやサークル
が必要になることも。
普段から慣れさせておくと、
ストレスが減らせるかもしれませんね。

SNSのトップ画像を変更する

アイコンを見て安否が
確認できるようなものに変更すれば、
SNSでつながっている人に一斉に
安否を知らせることができます。

～東日本大震災体験談～

私は震災当時、福島県いわき市という街に住んでいました。
生まれ育ったその街は、「いわき七浜」という地名の通り、七つの浜がある海沿いの街です。
海に近い場所では、地区内の家屋のほとんどが津波により流失してしまった所もあります。
　東日本大震災は、午後2時46分に起きました。
それは、ちょうど下校時間と重なっていました。学校にいる時に被災した子もいますが、
下校途中で地震に遭った子、津波にさらわれてしまった子もいました。
　震災後、私の情報源はもっぱらラジオでした。中でも「FMいわき」というコミュニティFMの情報に
助けられました。支援物資や給水所の情報、ライフラインの状況などを正確に伝えていました。
その中に、身元不明者の遺体安置所情報がありました。津波で流されてしまい、命を落とされた方のご遺体
の安置場所を知らせるために、着ていた服装や特徴などを毎日伝えていました。
たくさんの情報を聞きながら、私はその方々を想像していました。
「赤いマフラーにピンクのスカート、水玉のジャケットを着た6歳くらいの女の子です。（実際の内容とは異なります。）
お心あたりの方は、〇〇までお問合せください。」というお子さんの情報が、ふと耳に留まりました。
低学年の女の子でしょうか。下校途中に津波に遭ったのでしょうか。
その女の子の情報は次の日もありました。その次の日も、そのまた次の日も…次の日も…
もしかしたら、その子の親御さんは迎えに行きたくても行けない状況だったのかもしれません。
親御さん自身が被害に遭われていたのかもしれません…。
私は、ただただ早くその子に迎えがありますように…と祈ることくらいしかできませんでした。

どうか、想像してみてください。それが自分に起こったら？
今、大震災が起きたら、お子さんは適切な行動を取れますか？
お子さんを確実に迎えに行くことはできますか？
防災グッズを買って安心していませんか？
いざという時、家族がそれぞれどう動くのか？
家族全員で話し合うだけでいいんです。
それこそが防災の第一歩だと私は思います。
だって、命さえあれば、後はどうにかなるんですから。

それほどの「揺れ」が来ることを想定して、家具の固定をしてみて下さい。

地震後、帰宅すると冷蔵庫の扉が開いていて、中の物が飛び出していました。
食器棚も同じように揺れ、扉が開いたのでしょう。
食器が落ちて粉々になっていました。

携帯トイレも備えておくことをおススメします！

メゾネットタイプの集合住宅に住んでいましたが、
建物の横に埋められていたトイレの浄化槽が破損。
上のアスファルトも割れてしまい、トイレは使用
できなくなりました。もちろん管理会社に電話して
もつながりません。
結局、連絡が取れたのは一週間後でした。